

◆ 新収蔵資料紹介（令和8年度4月）展示解説シート ◆

けんいんしゃ ふなびきかねと（てつもん）いかだ
郷土歌壇の牽引者・船曳鐵門、筏を詠む

会期：令和8年4月3日(金)～30日(木)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

この度初公開する「船曳鐵門和歌短冊一枚」(資料番号 A2024-019)は、東京都在住の古美術品蒐集家^{しゅうしゅう}が近隣の古美術店より入手したものです。令和7年2月25日付けで本市が寄贈を受けました。

和歌の作者である船曳鐵門(1823～1895)は、江戸時代の久留米藩の藩校講師を務め、明治時代には高良神社(現・高良大社)の宮司に就任し、史家や歌人としても活躍しました。

作品にある「^{そまがわ}杣川」は、木材を流す筏やそこで働く筏師の様子、川沿いの風景を詠んだ和歌に多く使用される歌枕^{うたまくら}です。本作品は材木を筏にして下す命がけの危険な仕事に対し、人々が見慣れてしまっていることに対する驚きや感嘆を詠んでいます。

筑後地域でも、木材は川を利用して運ばれていました。この杣川がどこなのかはわかりませんが、筑後川や矢部川でみた風景を詠んだのかもしれません。

●和歌「筏」



筏

杣川やおろす^(筏)いかたの^(如何)いかなれば
あやふき業^(危)に見^(慣)なれそめけん 鐵門

【 船曳鐵門年表 】

和暦	西暦	事柄
文政 6	1823	^{いせのみおやじんじやしかん} 伊勢御祖神社祠官船曳大枝の次男として、三潞郡大石村（現・久留米市大石町）に生まれる 幼少より、国学や和歌、漢学を学ぶ 長崎で歌文、江戸で国学を研究する
慶應年間	1865-8	久留米藩の藩校明善堂の講師に任ぜられる 大石村の自宅に塾を開き、国学や和歌を指導する
慶應 4	1868	藩の権力争いに巻き込まれ、 ^{あがりや} 揚屋入り ^{しぶん} （士分の獄）となる
明治 6	1873	香椎宮（現・福岡市東区）宮司に任ぜられる
明治 7	1874	高良神社（現・高良大社） ^{ごんぐうじ} 権宮司に任ぜられる
明治 17	1884	高良神社宮司に昇進する この間、福岡県から『筑後国史』 ^{ちくごこくし} の編輯等 ^{へんしゅう} を命ぜられる。また、筑後一円に鐵門派の和歌が栄える
明治 28	1895	2月10日没。享年 73